

# 今どきの中学受験 まずはココから★



# 今どきの中学受験ってどうなっているの？

**Q** 中学受験率ってどれくらいなの？

**A** 2021年は過去最高の受験率でした。

現在、中学受験を検討しているお子さんをもつ保護者の方々は、自らの中学受験の経験から受験の大変さを身をもって知る一方で、私学の魅力も実感し、教育やお子さんの今後の進路について強い関心をお持ちの方が多くではないでしょうか。

中学受験は、社会や教育を取り巻く状況、経済情勢の影響を大きく受けるといわれています。そのため、2021年度の中学入試は、コロナ禍の影響を受け、受験者数は減少するのではとみられていました。しかし、受験者数は13年ぶりに5万人を超え、受験率も16.86%と過去最高。首都圏全体では6人に1人以上が、私立・国立中学を受験したことになります。\*

保護者の方々が中学受験をしたときと現在のの違い、知っておきたい変化のポイントをみていきましょう。

**Q** 少子化で、受験者数は減っているんじゃない？

**A** 反対に増えています。

ここ30年の間、首都圏の私立・国立中学受験者数が5万人を超えたのは、過去2回のピーク時と2021年です。

※1度目のピークはバブル期の1991年頃。2度目のピークは2007〜2008年頃で、2007年の受験者数は50500人（受験率は16.45%）、2008年は受験者数49000人で受験率は16.57%でした。

その後、2008年のリーマンショックや、東日本大震災による社会的・経済的不安から、中学受験の人気は下降していききました。

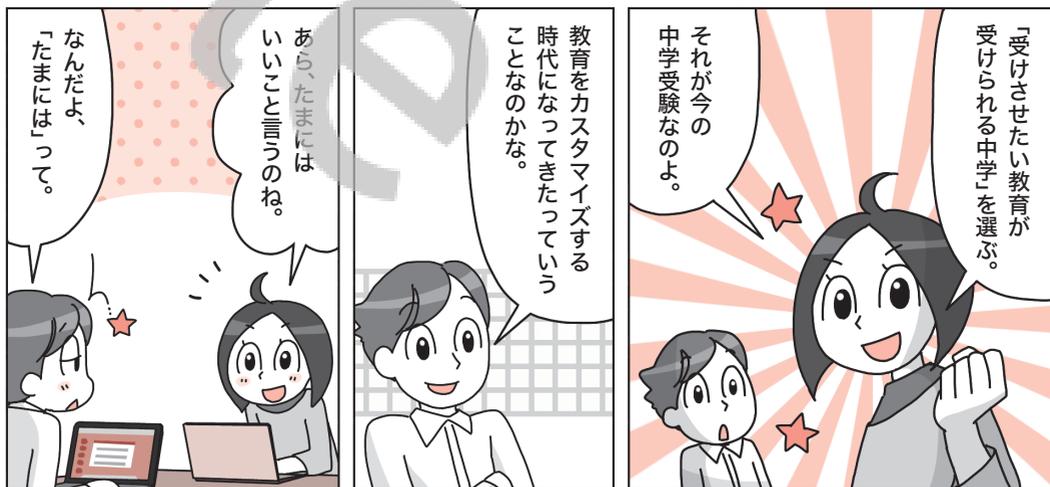
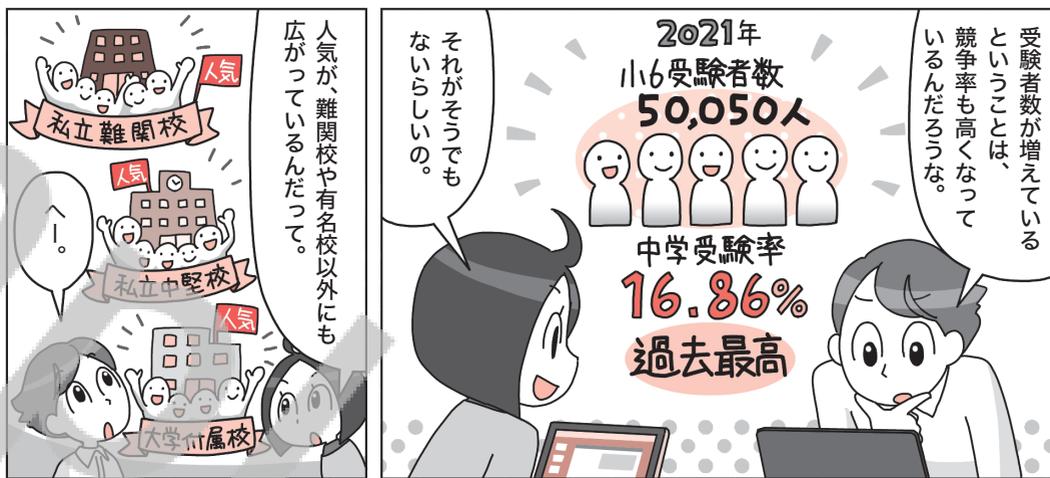
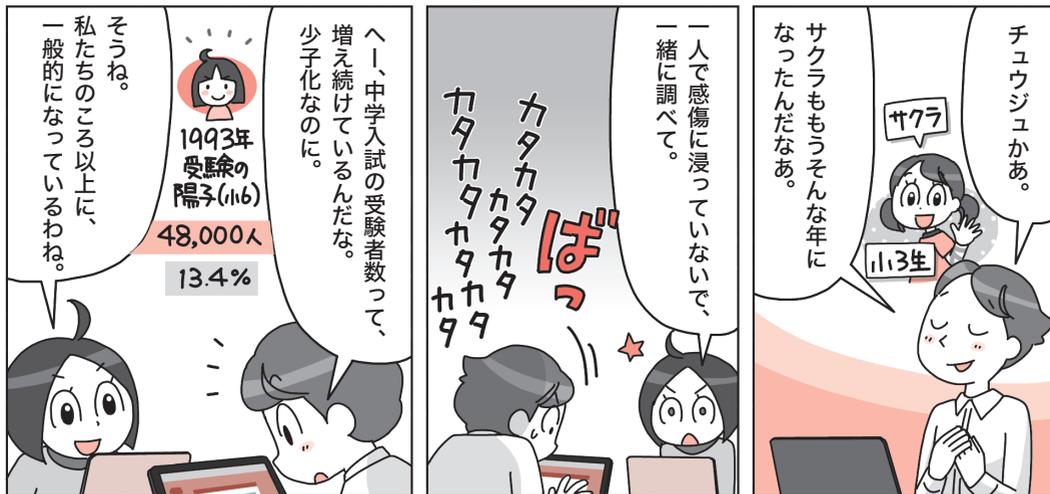
ところが、少子化で児童数が減少または横ばい傾向であるにもかかわらず、2014年度の大学入試改革の公示を機に、中学受験者数は増え続けています。

過去最高の受験率だった2021年度入試は、難関上位校への挑戦が減り、安全志向が強まるなどの特徴がありました。

へー！ そんなに受験するんだ。みんな、どんな学校を受けているんだろう？

気になりますよね。「今どきの傾向」も知っておきましょう。

※出典：首都圏模試センター「首都圏私立・国立中学受験実受験生数」より



※中学受験率(小6全体に占める中学受験生の割合)=小6生数÷実受験生数×100